

各イベントの質疑における意見

イベント情報	内閣府全国キャラバン情報	主な御質問・御示唆	今後の検討に当たっての対応方針
<p>2020年日本バイオインフォマティクス学会年会・第9回生命医薬情報学連合大会 一般公開シンポジウム</p> <p>開催期間: 9月1日(火)～9月3日(木)</p> <p>主催者: 日本バイオインフォマティクス学会(JSBi)、日本オミクス医学会</p>	<p>講演時間: 9月3日(木) 15:30～17:00</p> <p>講演タイトル: 「Society5.0を迎える社会と科学技術・イノベーション」</p>	-	-
<p>電子情報通信学会ソサイエティ大会</p> <p>開催期間: 9月15日(火)～9月18日(金)</p> <p>主催者: 電子情報通信学会</p>	<p>講演時間: 9月16日(水) 13:10～13:50</p> <p>講演タイトル: 企画講演セッション(TK-1) 次期科学技術・イノベーション基本計画を見据えて Society 5.0の社会実装へ 「科学技術・イノベーション基本計画の検討の方向性について」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数値目標が評価指標になると、数値重視となる懸念。それでは成長や国力につながらないのではないか。総合的指標の設計が重要ではないか。 ・ スピード感のある研究成果発信に向けて、学会への期待如何。 	<p>目標や指標が本末転倒にならないようにすることも含め、次期基本計画の検討を進める。</p>
<p>学術フォーラム「生きる意味 -コロナ収束後の産学連携が目指す価値の創造-」</p> <p>開催日時: 9月20日(日) 13:00～17:30</p> <p>主催者: 日本学術会議</p>	<p>講演時間: 9月20日(日) 15:30～17:15</p> <p>講演タイトル: パネル討論「生きる意味から探るより良い社会への変革の道筋-第6期科学技術・イノベーション基本計画への期待-」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生きることへの不安に対し、安心ではなく、リスクとしてチャレンジできる環境をどう作るか。Society 5.0ではそれが第一歩ではないか。 ・ 価値・アプローチにはコンセンサスが重要。前段階としてタームが共有されているか。そこに人文・社会の知見が活かせるのではないか。 ・ Society 5.0を体現する生活をイメージできていない。社会実装に向けて、開発側の人がもっと開発を加速し、社会実装すると、Society 5.0に対する理解が進む。 ・ 知識集約型社会において、人間中心という言葉はAIをあまりにも意識しているが、地球環境も含め、そもそも幸せとは何かを考え直すべき。 ・ 「成長」という言葉が前提となっているのか。人口減少の中、量的にはもう無理ではないか。質的など、違う価値を求めないと、社会が見えなくなるという印象。 ・ 無形のものへの価値づけはできているのか。社会的価値をどこまで入れるかについてのコンセンサスがでない。無形の価値の見える化が大事。 ・ ないものからあるものを生み出すには、ベーシックな部分の多様性を尊重する力量が問われる。国の重要なミッション。社会インフラと苗床を枯らさないこと。 	<p>ビジョンを共有できるよう、用語を適切に定義し、論理性を担保しつつ、国が取り組むべき内容も含め、次期基本計画の検討を進める。</p>
<p>第30回政策委員会</p> <p>開催日時: 9月24日(木) 15:30～</p> <p>主催者: (一社)科学技術と経済の会(JATES) 技術経営会議 事務局</p>	<p>講演時間: 9月24日(木) 15:30～</p> <p>講演タイトル: 「第6期科学技術基本計画の原案とデジタル変革時代へ向けて」を受けて議論</p>	-	-
<p>日本学術会議in山口 オンライン公開講演会 AI戦略の地方への展開 大学におけるデータサイエンス教育と地域連携 AIは我々の生活をどう変えるのか</p> <p>開催日時: 9月27日(日) 12:50～</p> <p>主催者: 日本学術会議</p>	<p>講演時間: 9月27日(日) 13:05～13:35</p> <p>講演タイトル: 政府のAI戦略について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ AI活用について、観光業に与える影響など、接客業ではどう活用できるか。 	<p>社会像や人間の在り方、倫理を問う人文・社会科学的なアプローチの重要性も踏まえつつ、次期基本計画の検討を進める。</p>
<p>TSUKUBA GLOBAL SCIENCE WEEK 2020</p> <p>開催期間: 9月28日(月)～9月30日(水)</p> <p>主催者: 筑波大学</p>	<p>講演時間: 9月30日(水) 13:00～14:00</p> <p>企画者: 筑波大学・つくば市合同企画</p> <p>講演タイトル: 第6期科学技術・イノベーション基本計画の検討の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Society 5.0時代の若者のマインドセットについての考え如何。 ・ デジタルデバイスについての考え如何。 ・ 今後の職業についての考え如何。 ・ スマートシティなど成功例が必要。地方展開のためのキーポイント如何。 ・ 世界においてJapan Modelが認められる必要がある。 ・ 計画達成をどのように評価するか。 ・ グローバル化は良いことであるという前提があるように見えるが、考慮すべき点はないか。 	<p>提示のあった様々な論点も含め、次期基本計画の検討を進める。</p>

<p>Power of Community ～エネルギーイノベーションを加速させるコミュニティとは presented by 4 communities</p> <p>開催日時: 10月2日(金) 19:00～21:00 主催者: CIC Japan</p>	<p>講演時間: 10月2日(金) 20:10～20:20 講演タイトル: 科学技術・イノベーション基本計画の検討の方向性について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、どのように日本の国際競争力を取り戻していくかが重要。日本の次の勝ちパターンにつなげられると良い。 ・ 日本が過去に製造業でうまくいった時代の記憶を引き摺り続けている。そのような層もうまく巻き込まないといけない。 ・ SDGsは幅が広すぎるため、2030年に向けてこれに基づき取り組んでいては遅いものもある。どれもやって全部失敗しては意味がないので、分野を絞り、もっと前のめりにすべき。 	<p>我が国の国際競争力や社会の価値観、重点的に取り組むべき事項といった観点も含め、次期基本計画の検討を進める。</p>
<p>CEATEC 2020 ONLINE</p> <p>開催期間: 10月20日(火)～10月23日(金) 主催者: 電子情報技術産業協会(JEITA)、情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)、コンピュータソフトウェア協会(CSAJ)</p>	<p>講演時間: 10月22日(木) 13:00～13:50 ※CEATEC2020 ONLINE入場登録者に限り、後日動画の間覧可能(10月28日以降配信予定) 講演タイトル: Diver-CSTI—Society 5.0実現を目指す次期科学技術・イノベーション基本計画の方向性—</p>	<p>-</p>	<p>-</p>
<p>第64回宇宙科学技術連合講演会</p> <p>開催期間: 10月27日(火)～10月30日(金) 主催者: (一社)日本航空宇宙学会</p>	<p>講演時間: 10/29(木) 12:20～13:15 講演タイトル: 科学技術・イノベーション政策における宇宙科学技術の役割に関する意見交換会</p>	<p>-</p>	<p>-</p>
<p>研究・イノベーション学会 第35回学術年次大会</p> <p>開催期間: 10月31日(土)～11月1日(日) 主催者: 研究・イノベーション学会</p>	<p>講演時間: 11月1日(日) 12:35～13:55 講演タイトル: 企画セッション(講演及びパネル討論) 科学技術イノベーション基本計画の共創に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Japan Modelは、米中対立の中での独自路線という敗北主義にも見えかねない。打ち出し方に気をつけるとともに、ナショナリズムにつながらないようにしないといけない。 ・ 学術研究とそれ以外の均衡の取れた推進に当たり、学術研究の地位が相対的に低下しないようにしてほしい。 ・ 中堅研究者になったときの不安を払拭すべく、大学による長期的な育成取組が必要。政府はそれを促進すべき。 ・ 大学改革は、基礎研究への支援と表裏一体。大学は論文や研究者数といった指標に振り回されず個性を発揮し、政府は自発的な取組を支援してほしい。 ・ 新しい研究領域や融合領域をどう評価するか。 ・ 新しい価値の社会受容性をどう高めるか。 ・ 人文・社会科学の新たな役割とは何かを検討していくべき。 ・ DXの本質は、認識や行動の変容。この指標化がポイント。 ・ 情報・知識のオープン化により、成果の価値づけの多義化が進むが、その運用が整っていない。 ・ プレプリントやフリーランス研究者に関する最新事例が取り入れられることで、政策のDXも進むのではないか。 ・ 国の財政状況は厳しい。企業からの資金を増やす措置等が必要。 ・ 政策の実現可能性を高めるモニタリングやロジックチャートをどう実現するか。 	<p>提示のあった様々な論点も含め、次期基本計画の検討を進める。</p>
<p>けいはんなR&Dフェア2020</p> <p>開催期間: 11月5日(木)～11月7日(土) 主催者: けいはんなR&Dフェア実行委員会</p>	<p>講演時間: 11月5日(木) 14:00～15:15 講演タイトル: (特別講演) 第6期科学技術・イノベーション基本計画の検討の方向性について、(パネルディスカッション) With コロナ時代の産学官連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルコモンズを実現する上で、産学官それぞれに深い知識と経営センスを持つ人が必要。 ・ 異分野融合や若手研究者の支援、オープンサイエンスの促進が大事。 ・ オープンデータベースについて、誰がどう運営していくかを示さなければ、世界と戦えない。 ・ デジタル化を核として、オールジャパンで世界との言語の壁を打開すべき。 	<p>DXやオープンサイエンスといった観点も含め、次期基本計画の検討を進める。</p>
<p>アグリビジネス創出フェア2020</p> <p>開催期間: 11月11日(水)～11月13日(金) 主催者: 農林水産省</p>	<p>講演時間: 11月13日(金) 13:00～14:00 講演タイトル: 次期科学技術・イノベーション基本計画の検討の方向性について</p>	<p>-</p>	<p>-</p>

<p>IoP (Internet of Plants) から始まる高知版 Society 5.0の実現」 ～～内閣府 次期科学技術・イノベーション基本計画の共創に向けた全国キャラバン (高知開催) ～～</p> <p>開催期間: 11月14日 (土) 主催者: 高知県、高知大学、高知県立大学、高知工科大学</p>	<p>講演時間: 11月14日 (土) 13:15～16:15 講演タイトル: (講演) 科学技術・イノベーション基本計画の検討の方向性、(パネルディスカッション) ～『IoP (Internet of Plants)から始まる高知版Society5.0の実現』～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Society 5.0のイメージが沸いてこない。Society 5.0は実装に寄り添うネーミングとし、双方向のコミュニケーションを強めて共創していくべき。学も入れて巻き込む力を強くすべき。 ・ 農業のデータ連携を進めているが、いかにプラットフォームを作るかが重要。第5期基本計画では、プラットフォームをどう育成するかが抜け落ちていた。 ・ 食の安全保障は国が備えるべき機能。生産現場の強化、食品産業の国際展開、データ人材の育成をお願いしたい。 ・ 地方のイノベーション予算をしっかりと確保してほしい。 ・ IoPは農家、工業会も広く関わっており、垣根を取り払うモデルになるのではないか。垣根を取り払うには、縦割りの中央省庁より地方自治体の方が小回りは効く。適切なプロジェクトがあれば地方団体に任せてはどうか。 	<p>地方創生や農業分野における科学技術・イノベーションの活用について留意の上、次期基本計画の検討を進める。</p>
<p>『次期科学技術・イノベーション基本計画の共創に向けた全国キャラバン』 三重大学開催『三重の未来図共創の場』</p> <p>開催期間: 11月16日 (月) 主催者: 三重大学、三重県</p>	<p>講演時間: 11月16日 (土) 10:15～12:15 講演タイトル: (講演) 次期科学技術・イノベーション基本計画の検討の方向性(案)に関する説明、(パネルディスカッション) 「日本と世界の発展に寄与する『三重の未来図』は描けるか。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方大学に期待される役割をどのように果たすことができるか、基礎研究、社会課題解決、人材育成のバランスは悩みどころ。 ・ (産業界から) 日本の半導体産業の基礎は大学の研究であり、逆風もある中で研究を進めたことが今につながっている。大学の芽が出るか分からない基礎研究に対して支援を行うことは重要。 ・ 組み直し=新結合による地方発のイノベーションが次々に生まれ、世界に発信され、国際コミュニティに発展することを期待。 ・ 科学技術・イノベーション政策の内容を広く国民に周知する際には、「誰が読んでも分かりやすい文章」を意識してほしい。政府が発行する文書には国民に分かりやすいように伝えるという意味が欠如しているように思えるため、改善してほしい。 	<p>基礎研究や地方発のイノベーションのほか、文書の分かりやすさについても留意の上、次期基本計画の検討を進める。</p>
<p>TSUKUBA CONNECT #8 Startups & Researchers</p> <p>開催期間: 11月20日 (金) 主催者: Venture Café Tokyo</p>	<p>講演時間 11月20日 (金) 18:00～18:30 講演タイトル 内閣府から科学技術・イノベーション基本計画の検討の方向性について</p>	<p>-</p>	<p>-</p>
<p>次期科学技術・イノベーション基本計画に共創に向けた全国キャラバン 北海道大学COI「食と健康の達人」拠点 Inclusive Life in Society 5.0 -女性が共感でつながっていく社会へ-</p> <p>開催期間: 12月4日 (金) 主催者: 北海道大学COI「食と健康の達人」拠点、内閣府</p>	<p>講演時間: 12月4日 (金) 14:05～14:25 講演タイトル: 科学技術・イノベーション基本計画の検討の方向性について</p>	<p>-</p>	<p>-</p>
<p>東北みらい創生シンポジウム「地方創生と人材育成」</p> <p>開催期間: 12月5日 (土) 主催者: 弘前大学、岩手大学、東北大学、宮城教育大学、秋田大学、山形大学、福島大学、新潟大学</p>	<p>講演時間: 12月5日 (土) (講演) 14:10～14:40、(パネル討論) 15:10～16:45 講演タイトル: (講演) 科学技術・イノベーション基本計画の検討の方向性について</p>	<p>-</p>	<p>-</p>

※上記17件のほか、非公開のイベント2件あり

アンケートフォームを通じて回収した意見

No.	あなたが望む「未来」とはどのようなものですか？	ご回答いただいた「未来」の実現に向けて、「科学技術・イノベーション政策に期待すること」は何でしょうか？	その他自由記述
1	健康で文化的な生活が、誰でも、意識しなくても享受できる社会	記憶力や判断力、あるいは体力や健康を支援してくれる体内・外装着型のデバイスの開発と普及	社会実装には、コストがかかります。護送船団方式の弊害が言われて久しいですが、国内企業のグローバルな競争力確保には、中国並みとは申しませんが、国を挙げた一定の支援が求められると思います。
2	誰もが夢を持って生きていける世の中	弱者への配慮	
3	人間中心の社会	第5期が失敗に終わった原因を分析した後、第6期を立案すべき。	今のやり方では、いつまでたってもSociety 5.0を実現できない。
4	日本の科学技術が世界をリードし、かつ地球環境に負荷をかけずに経済が発展していけるような社会。	近い未来に役立ちそうなものだけでなく、10年以上先の未来に芽が出そうな研究を見極めて積極的に投資する。優秀な理系の友人が何人も「研究者や技術者の給料が安いから」という理由でコンサルや金融分野に進んでいく現状に危機を感じる。努力している技術者の待遇を良くすることが、イノベーションを起こす人を科学技術の分野に留める1つの手かもしれないと思います。	科学技術の発展は人類が存続するためにも必要不可欠なものだと思います。地球全体で協力して、今ある環境問題等の課題解決に向かっていけたらいいなと思います。
5	健康の心配が少ない未来。	疾病の早期発見、発症前の発見。	
6	2040年代以降に日本社会が元気で活力溢れる平和な暮らしを送っていること。	未来を背負う現在の小中学生が、伸び伸びとした個性を伸ばせる教育を受け、文化、芸術、科学、社会など幅広い分野を学べるための科学技術・イノベーション政策であって欲しい。	6次計画にせめてOECD平均並の1学級24人クラス実現を、GIGA School構想の初等中等教育デジタル環境目標に盛り込んで、未来の競争力強化の柱として欲しい。
7	安全安心な生活環境、病気や災害へのロバスト化が進む。人と人の信頼関係が進む。	病気や災害の予測、シミュレーション。高齢者や弱者(身体的な面や情報取得などの面でも)を支援・支える技術など。	
8	便利だけど人間らしい生活を送ることができる社会	技術を柔軟に活用できるような取り組み	
9	災害や病気なく健康に暮らせる	災害や病気を予測して先回りで対策できる技術の開発	
10	全ての人に（老若男女、大都市・地方問わず）同じレベルのサービスが受けられるためにICT技術が活用されている社会。	ICT利用の使い勝手の良さ	PC、スマホが使えない人が損をしない社会を作るための技術革新を期待します。
11	健康寿命が長く、いろいろな手段でみなさんと交流できる状態	医療技術、街作り技術などの向上	

12	一律主義からの解放 ・思想や能力にかかわらず、個人が個人として尊重されること。 ・失敗やドロップアウト、生活や死などに関わる事柄を過度に恐れなくてよい社会になること。	多様性を尊重し、それぞれの可能性を伸ばすような教育制度改革・意識改革	
13	自然な形で幸福感を感じることができる社会	多様な人材が希望を持てる政策を期待します。特に、博士人材への支援策を期待します。選択と集中という方針を撤回して、多様性の尊重を掲げてはいかがでしょうか。但し、少数の国家基幹技術プロジェクトの推進は、別次元の重要性があることに留意すべきですが。	2001年に、科学技術会議が総合科学技術会議に改組された時から、人文社会科学は総合科学技術会議の所掌になっていたと思いますが、これまでの政策のレビューがあつてしかるべきと思います。
14	希望がある社会	知の多様性を尊重する政策	Society 5.0は、人類共通の発展段階を提示する概念のはずなので、日本の価値観とかJapan Model といった概念を持ち込むべきではない。
15	自分自身が安心して安全に暮らし続けられる場所、かつ、子供やそのつぎの世代に託すことが喜びとなる場所。	持続可能な開発目標を達成するために、新しい科学技術やイノベーションを後押しすることはもちろん、科学技術でできること／できないこと、正の側面／負の側面を正しく理解し、それらについて互いに議論し、社会にフィードバックすることができる素養を持った人を広く輩出すること。	
16	Society5.0が真の社会実装を果たしている未来	デジタル化が進まないのは、一部マスコミや民による過度なネガティブキャンペーンによるところもある。縦割り行政など政府を責めるだけでなく、民間こそITリテラシーを上げなければならない。そこに資する政策を望む。	
17	IT先進国としての最先端技術で立国している未来	国の研究開発投資の増強	
18	身体的な障害、または住む場所による移動制限があっても、学校、会社、観光地などで平等に活躍できることを未来としています。地方で住みながら都会で仕事したい人もいれば、都会で住みながら地方の農業で仕事したい人もいます。	遠隔で活躍できる技術の発展	
19	Society5.0 とSociety2.0がミックスしたような、豊かな自然のなかで農耕的な生活しながら、デジタル化を楽しむような社会	0と1のデジタルだけで表現しにくい、人間の感情のようなものの取り扱い。人間は便利だけを追及している訳でもないと思います。何が幸福かの再検討も必要ではなからうか？	
20	すべての人がストレスから解放される	格差を拡大するのではなく、なくすことに有効な社会に向けた実装	イノベーションの原動力である次代の基礎科学の創生こそが日本型SDGsだと考えます。
21	AI化や自動化により、人間が労働に従事する時間を例外なく週3日以内にできるように生産性を高める。生きているだけで、普通に生活するために十分な金銭的サポートが整備され、その上で効率的な労働による報酬が得られる社会。	ロボット等ができることは人間がやらなくてもよいように、全自動化していく。そのために、開発、維持に関与する人材の教育法の開発、人材育成が必要。深い専門性を持つ人材、様々な異分野を連携させる人材、全体をマネジメントできる人材の育成が重要。	悪平等ではなく、長所を伸ばして活かせる社会にしたい。

22	<p>科学技術による健康な地球と持続可能な社会、科学技術と自然がともにある世界。</p>	<p>表向きの政策、短絡的かつ安易な政策、言葉だけで判断や研究者や国民を躍らす政策ではなく、中身の伴った、先端研究・技術も、少しローテクなものも、適切な予測と計画のもとに推進・社会実装され、Society5.0が実現しSDGsの課題を解決に導いていける内容と行使できるものとなっていること。</p>	<p>TGSWでのお話を伺ってになります。質疑のお時間にお送りできませんでしたので個別にお送りさせていただきます、参考にお心に御止いただければと思います。</p> <p>1) DXやSociety5.0という言葉のもとに、適切な研究や技術が予算がつかない、実装されない、ということへの危惧をもつことがあります。</p> <p>TGSWの中で「ドローンでの橋梁検査」などのお話でしたが、この場合もです。1つの問題に対し複数のアプローチある場合、1つの問題が抱える本質や環境というものを目先の予算（額や取りやすさ）や工期を考え「ドローンを利用する方法でまずはいいでしょう」、とステークホルダー（ユーザー）が考え受け入れている、というような事がございます。問題について長い目で、かつ高所から見つめた場合、他の技術・手法をとったほうがいい、と研究者や専門家が考えていても、ユーザーは、単年度での決められた予算の中で対応しようとする「安価安易に一時的・一過性であるが利用できる」ということと、予算がつけてもらいやすいからということで昨今のメジャーなワード（この場合は「ドローン・DX」）の技術のものと取り入れる、ということがあります。こういう流れについてはどのようにお考えでしょうか</p> <p>2) 前述の例の場合、科学技術そのもののフェーズなどの一方で、日本の科学技術がSociety5.0実現に向け展開を進められる際に、様々な分野からの科学的検討とともに、経済や都市工学、人文科学からの検討、政策・政治と一緒に進めなければ持続可能な社会のための実装は難しいと考えます。そのためにも、文理融合の言葉が今回も入ってきているのだと思います。しかし、実際には文理融合は表面的にしか、一部領域でしか、取り組めていないし機能していないと感じます。たとえば、つくば市はスマートシティの推進のため、企業と専門家などからの分科会などを進めているようですが、一方、つくば市はつくば駅前の新規開発とともに科学の街としての検討を進めようとしています。また、つくばには、大学・研究機関・TGIなどの支援機関などが、多くの社会実装やsociety5.0への動きをされています。しかし、これらの推進のかなめなる方々が連携し、あるいは可能な範囲で情報をまとめ広く研究者や市民に意識共有することが少なく、本当の科学技術でのsociety5.0の実現は、現実から遠いものとなっています。</p> <p>これらを何とかするためには、また、society5.0の実現の加速のためには、実際にはどうすればいいとお考えになりますでしょうか？そのための更に強い一文が本計画の中に欲しいとも思いますがいかがでしょうか</p> <p>3) 国がいろいろな制度・施策を用意してくださっても、実際にそれらを動かすことができるかどうかは、関連組織における人材によるところもかなり大きいと考えます。そのような人材は、数年から長くても5年程度で異動になるなどほぼ継続しないのが、いまの日本の科学技術や産学連携の現場です。そこは、今後もそう変わるとは思えないのです。研究者レベルではそれらへの課題の意識が大きく、かなり似たような意見なのですが、組織となると、自分たち組織のことだけを考へての人材の雇用や配置の話になってしまっていることが多いです。そこに一石投じるようなことも、お考えいただけないかと思っています。</p>
----	--	---	--

23	人間的な触れ合いが大切に担保されている社会	技術の暴走がないようにコントロールされ、手段として収まるよう明示されること	会合の後の名刺交換時のおしゃべりから新しいアイデアやつながりが生まれる、という発言に共感しました。非接触のなかでも忘れたくないつながりだと思います。
24	子供たちが平穏で過ごしやすい日常を心配なく続けられる未来	資源循環・脱炭素、持続可能な社会の形成、災害対策	
25	誰もが自分の能力を活かすことが出来、安心、安全、豊かで幸せな暮らしが出来る未来を望みます。	若い人材、熟年層人材達が相互に知恵を出しながら、未来に向けて、知恵を發揮し、実現へ路線を創れる制度スキーム。あまり細かいところまで決め込まず、自主的に取り組んでもらい、上手いきそうな案件を育てる制度設計。	
26			この機会に、是非とも、長年懸案であった 官公庁、大学など、特に公的事務部門の効率化、デジタルデータ化、情報公開を、短期集中的に、政府が本気で推進して、台湾事例のように、成功例を早期に示していくことを期待します。DXが、ITなどと同様、単なるパスワードにならないように、真に世界を牽引する存在に！
27	より多くの人々が技術の恩恵を受けられるような状態。 技術が利用者にとってわかりやすく使いやすい状態。	シンプルで誰にでも理解できる説明と情報開示	
28	以下のような社会が実現されている未来 ○地球環境の劣化や資源の枯渇によって、人類の生存が脅かされることのない社会 ○戦争、紛争、暴力、犯罪、軍事力や経済力を背景とした威嚇などに人々が脅かされることのない社会 ○人々が、人種、民族、国籍、門地、学歴、経済力、思想などによって、差別されたり、不利益を受けたりすることのない社会	左記では、未来の人々が幸福に生きていく上での脅威を最小化したいという願いがある。科学技術・イノベーションは、上記の脅威を最小化することに貢献して欲しい。その際、歴史的には、科学技術・イノベーションが上記の脅威をむしろ増幅、拡大した事例も多いことにも鑑み、新たな技術・イノベーションが社会に及ぼす影響を事前に評価し、悪影響の大きい技術・イノベーションは制限することが可能な制度を作って欲しい。	科学技術・イノベーション基本計画の立案にあたり、昨今の社会の変化の潮流を丁寧に分析・把握されていること、第5期科学技術基本計画で設定された数値目標の達成状況の評価が行われたことは、高く評価いたします。 また、Japan Modelについては、資料を見ただけでは分からなかったのですが、ご説明を聞いて、デジタル化・データ活用を、GAFAのような企業主導でもなく、中国のような国家主導でもなく、広く社会で共有し活用しようということで、大変すばらしい発想であり、是非、国際的にも発信していただきたいと思いました。 一方、スライド36-38のイノベーション力の強化、研究力の強化、人材育成・資金循環などの方策については、これから議論ということかもしれませんが、あまり新鮮味を感じません。資金は重要な要素ですが、科学技術関係予算は増やしたという一方で、国立大学法人や国立研究開発法人の運営費交付金は毎年1%削減という仕組みを、そのままに放置しては、これら法人の組織が立ちゆきませんし、研究成果を出すことよりも、お金集めのために多くのエフォートを割くことで、研究力・イノベーション力の低下につながっている印象を受けます。 イノベーションが重要ということを標榜するのであれば、その前に研究機関、研究者が研究・イノベーション活動に集中できる環境を作るための研究資金改革が重要で、重要ですと言っているだけではダメで、意思決定し、実行することがなにより欠かせません。

29	1人1人が自分に自信を持って、お互いの良さを認め合い・尊重できる世界。優しい世界。罪悪感を持たなくて良い世界。ちがいを認められる世界。	イノベーションを起こすための「人」の育成に力を入れて欲しいです。イノベーションは「新結合」と言われるように、他分野の技術や考え方のコラボレーションが必要不可欠だと考えます。そのためには、自分とは違う考え方が存在することを許し、それを認め、知ろうとすることが必要だと考えます。上記を実現するには、まず、1人1人が自分の感じることに自信を持ちナラティブになることが重要だと考えています。	若手ではありますが、喜多恒介という者は本気で日本のことを考え、左記の想いを持ち、高校生～若手社会人に向けてオンラインワークショップを行っています。 数年前には、経済産業省の世耕大臣をお呼びして大学生を1000人以上集め一大イベントを主催しました。 https://peraichi.com/landing_pages/view/bzkmp?fbclid=IwAR3xUK2qj5ZdUgYZDN1AW14ZcpgqH61bavo2nJCpIh9ip8iNghNI9dLQyoQ https://sportsmanship-heros.jp/heros-lab.html
30	ひとり一人がその能力を最大限拓ける社会	既存のエスタブリッシュ以外への投資	
31	安心で、頑張れば報われる社会	世界で勝てる技術の開発。技術者が認められ尊敬される社会にしていく。	大学への国からの予算が減っていくのは、問題だと思います。
32	Sustainable state	Define the vision and make it as strategic option selection criteria.	
33	Society 5.0が謳う未来はテクノロジーがもたらす社会のあり方として魅力的だと思います。既に内包されているが、多様な個人と生命の誰をも取り残さない包摂性、有限な地球環境を持続するための負荷低減を重視する方向を目指す未来であってほしいと思います。	上に書いた方向性、すなわち多様な個人と生命の誰をも取り残さない包摂性、有限な地球環境を持続するための負荷低減を重んじることが個人の行動や企業の活動の動機に反しないよう、また技術の実装という手段が目的化しないさせないとの意識を前提として発信する政策であってほしいと思います。	残念ながら、Society 5.0の理想にはまだ遠い日本の現状です。トップダウンの意識表明と実働、ボトムアップを喚起する施策をお願い致します。
34	個性を活かして活躍できる社会	個性を伸ばし、尊重する教育 個性の多様な活かし方をもつビジネススタイル	
35	誰もが生きる意味を実感し、歴史の中で自分自身を位置づけられることが出来る機会を与えてくれる社会の到来	人文、芸術分野も取り組んで欲しい。	今日の公演は、俯瞰的で統合されたSociety5.0が理解できました。また、「ヘルスケア課長のときにどんだけいってもマスク・手洗いをしてくれなかったのに。。」というお言葉が実感がこもってよかったです。
36	衣食住が整い、平和、そして万人が将来に希望を持てる未来。AIoTが遍く行き渡り、紛争と飢餓の無い明るい未来。	IT教育の推進、利用、実践、そして普遍化。	AI、DX分野ではAWS、SIEMENSほか海外勢が幅を利かせている今、日本はそれら海外企業と伍する国内会社を育成することが喫緊の課題です。私が今、選定を進めているAI、DXシステムの候補は全て海外勢です。30年前であれば日立製作所や三菱電機が候補となったはず。シャープも東芝もそしてソニーも重要な中身は海外に流出しました。残念です。
37	誰もが希望が持てる。不安が無い。	健康生活、社会保障、高齢化社会の課題解決への貢献。	
38	安心して暮らせる社会。	IT技術を社会に浸透させるような政策。デジタル化の遅れというが、ICT技術はある。しかし、それを行政機関等、社会に生かしてない、浸透できてない、というのが実態だり、サービスを受ける国民目線、国民が政府施策に参加できるような社会になることを期待します。	

39	誰もが経済的、身体的、社会的に不安を覚えることなく、もっと「長生き」して、新しい技術や社会環境を体感し続けたいような未来が訪れることを望みます。	今後も引き続き、シーズ型の技術開発を推進することも重要だと考えます。一方で、日本の発展のための総合的・戦略的で具体的なビジョンの提示を行って、その実現のため「目的志向」の技術開発をスピーディに進めて、人にとって安全で利便性の高くなるモノ・コトを早く社会実装して頂ければと思います。	最近の技術開発等研究投資について、選択と集中を謳っていますが、やや偏りすぎていないでしょうか。
40	文明・生活レベルを損なわずに地球環境を持続できる未来。	研究開発への投資。主に人的資源。	総花的・バラマキは駄目だと思いますが、国の研究投資は企業のそれとは違って、効率が悪いところや見通しが悪いところなどに投資できるところが、その本質ではないかと思います。ムーンショットはそういう意味では良い施策ですが、大型案件目つ長期のもののため、もっと小粒のものを多くの研究に投資するといったやり方や、研究者がもっと容易に研究費を受けられるスキームなども考えればどうかと思います。
41			このほか研究者の研究時間を確保でき、目つ研究費を確保するのも容易にする仕組みも必要と考えます（過剰な書類仕事が多いように思うところです）。
42	多様性に富み、相互理解が進んでいる社会。分断や差別のない社会。多くの高齢者が自ら外出できる。	高齢化先進国である日本が、科学技術とイノベーションで、世界になくはない国となるように、基礎科学から産業応用技術まで芯の通った政策に仕上げたい。	
43	分断の少ない社会	万人の幸福の実現	
44	世界中の人々が平和で豊かな生活をおくれる社会	物理的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさを実現するためのイノベーションが重要だと思います。	
45	超高齢化社会に向けた、介護医療制度や今よりも暮らしやすい環境・社会・地域作り。 防災に強い街。 温暖化の抑制。	予測可能な大規模災害に対する行動学。	人類存続の為に、自分たちが出来ること。小さいことから・・・。
46	新たなるコンピュータサイエンスのパラダイムシフトにより、人類とコンピュータやヒューマノイドとの関わりを変革する。	未来を実現する発明を実体化させるための事業資金の供給。	未来をきちんと評価出来る体制を組んで欲しいです。
47	立場の違いによる搾取のない社会、自分が自分でいられる社会	アイデアからビジョンを膨らませて、技術に価値を与えるエコシステムの整備	企画の時点では、規制緩和とスピード感を提示していただけるのですが、公的資金が投入されると、現場は営業マインドではなく、管理マインドで仕事をすることになるので、委託事業や助成金ではなく、投資できる資金として使える仕組みが必要ではないでしょうか？
48	身の回りのものがプログラマブルになり、自在にコントロールできるようになる未来	プログラミング言語からHuman-Computer Interactionに至るまでコンピュータ科学の幅広い分野を扱う、PoCの実証実験を伴う応用研究を支援してほしい	

49	働きたい人が働ける社会。いつまでも無邪気に人生を楽しみ合えるような社会。	ベースとして、インフレ2%にはしてほしい。 お金は回してなんぼだね、という空気感さえ出せば何とかなる問題も多いのではないかと。 流行に左右されないテーマ設定をしてほしい。研究機関、大学への交付金を増やすこと。	
50	まさにドラえもん歌にある「あんなこといいなできたらいいな」を実現することだと思います。	日本発の「未来実現力」が落ちてきている印象を受けます。日本人全体はその状況を認識して、積極的に未来に投資する体制を作るべきだと思います。	
51	皆が利他的にふるまえる（基本的人権の尊重、生存のための努力が不要） 身体的・精神的ハンデを気にせずに生活できる 生物多様性の維持	政府があの手この手で科学技術・イノベーション振興を推進しようとされていますが、まだ各省で縦割り感があります（大企業も同様です）。産官学横串の「科学技術・イノベーション政策スタートアップ」を作って新省庁に発展させるなどの成功例を示せるといいなあと思います。	別件のため最後まで参加できず残念でしたが、刺激を受けました。初めての参加で少し緊張しましたが、Remoの使い方から親切に教えて頂けて楽しめました。スタッフのみなさん、どうもありがとうございます！
52	人がもっと自由に生活し、生きていくために現在のように激しく働かなくて良い社会。先端技術等が適切に共有され、差がなくゆとりを持てる社会。	研究開発が自由で楽しく、経済的にも不自由せずに行うことができ、開発した技術等で激しく富を偏らせたり、搾取をしつづけて済む社会環境	
53	すべての人が希望を持って働ける社会	女性や若手の研究者を増やしたいなら、まずはキラキラとした理想的な研究者を見つけて世間に出してイメージづくりをすることだと思います。それによって、女性や学生が研究者として生きる未来に希望を持てます。 実際に増えてきたら、苦労話も含めて提供できる現実的なロールモデルを提示することです。将来への道筋が見えると、安心して仕事を続けることができます。	
54	皆が各自もつ能力を制約なく最大限発揮でき、各自が尊重される。	制約を取り払う。例えば、アンコンシャスバイアスを取り払う。具体的には、男性にもライフイベントに伴う不自由さを強制的に経験させ、誰もが、特に管理職が問題を共有する。 また、時間的制約のあらゆる要因を取り除く。具体的には、オンライン業務を推進する、事務ワークを見直す、など。ITを利用してもっと効率を上げる。	キーパーソンの皆さんと意見交換ができ大変有意義でした。今後もまたありましたら、参加させていただければと思います。
55	誰もが医療格差などなく平等に自分を知る権利を要し、健康寿命を選択できる社会であること	卓上のお題目を並べても、国民の課題視座は低く大きな乖離を感じます 国民の意識向上という前に、国が目先のインセンティブ、ゲーミング性という課題視座まで降りてこれないと問題は変わらず、人の知見も上がらないと考えます。	
56	共同体の構築	社会哲学視座、真の幸福の探求、倫理性	
57	争いがない世界、努力が報われる社会、努力を認め合う社会、やさしさがあふれる世界...	必要なことは、科学技術ではないかもしれません	
58	子供が輝く社会	リアルな社会課題ソリューション	

59	地球の資源を消耗するのではなく、持続的に利用できかつ健康的に生きていける未来	持続可能な新たなエネルギーの創出	
60	男女間の格差や社会全体の幸福感 経済優先ではない個々の幸せを実相として大切にできる未来。	今回のディスカッションやプレゼンが活かされるよう、科学的に実証できる専門家が掲げる未来をより現実化するためにも、スピード感をもって実行してもらいたい。今悩んでいるカップルや女性が沢山いるひと達が次の困難を乗り越えられるように期待します。	大手企業の取り組みは先進的で羨ましく思いました。中小企業ではまだまだその問題にも目にも触れないことが多いように思います。そこに触れてもらうためにはどうしたら良いのでしょうか、改めて考えさせられます。
61	子ども世代が明るいものであること	積極的投資を行うこと	
62	人と人がつながり幸せを実感できる人生	生活を豊かに便利にし、環境を維持していくことのできる技術	
63	女性の笑顔がたくさんみられること。 女性が笑っている国が一番豊かで強く、幸福度が高いと思うからです。	<ご安産・産後鬱予防スケールを出してほしい。> 産後鬱はホルモンの影響や支援の薄さが要因と言われていますが、栄養の観点から血液データからでも予測が可能であると思います。大学病院などでは入院時・入院2週間毎に褥瘡予防のために、全員に血液データを確認してスコア化しますが、褥瘡予防とかではなくて（笑）将来の産後鬱のリスクや分娩時のトラブル予防のために血液データを活用するというのが一般常識化されて欲しいです。例えていうと、わかりやすいのは低栄養状態=低たんぱくなので、アルブミン値が〇以下だと、産後鬱のリスクや分娩時の出血多量、切迫早産になるリスクが高くなるなどと言えれば、かなりの予防医学になるのではと思います。よろしく願いいたします。	
64	未来ある年齢が希望を持てるような世界。 今の日本は老人中心である。	科学技術・イノベーションを囲い込むのではなく、開放することで、万人の未来に活用するような政策の実施	
65	自ら判断、選択して過ごした結果として、ああ生きたなあと思っている状況	多様性、他者の尊重 他の政策との連携 国の事業への参加の敷居をさげること、事務の簡素化	
66	安心・安定・安全をベースに成長がオンされた社会	先進性や斬新さだけでなく、大衆の生活の安心・安定・安全が確保を前提とした研究技術を捕捉	シンポジウムでの産官学の動きは勉強になりました。ありがとうございました。
67	全ての人、自由な選択ができる社会。	不妊治療、子育て、働く女性、すべてにおいて固定概念にとらわれない社会づくりを期待しています。	
68	健全な環境で生きる	原発廃止 + 再生可能エネルギー推進のためのイノベーション支援	
69	子孫繁栄	子供へもっと投資	

70	不公平感が無く、どの世代も健康で生き活きと活動できる未来	各個人の弱い点を補うことができる技術	興味深いフォーラムでした。 運営の方々ありがとうございました。
71	持続可能な地球と社会	2050年に着地すべき点が見えつつあり、基本技術も出揃っている。G5からG7までのシナリオも描けていると思う。要は、わが国1.2億人のフィールドで一気呵成かつ大規模に展開し、製品・サービスの価格を1～2桁下げて普及を図ること。そのために、事前に回収・返済プロセスを明らかにしたうえで科学技術債（国債より少々高い金利でよいと思う）を発行し資金確保してはどうか。	
72	母子の課題を社会の課題とし、意識せず暮らせる社会がゴールと考えます		
73	自然との共生ができる未来。	自然界に不可逆的かつ深刻なダメージが生じる前に検知できるシステムが必要	
74	幸福寿命の延伸	ウェルビーイングの可視化、メカニズムの解明	
75	女性が安心して妊娠、出産、育児ができる未来	医療制度の充実と地域サポートの充実	
76	個人個人に対応したシンプルに生きられる「未来」	食のパーソナライズ化	
77	自己決定が溢れる社会		
78	子供たちが健康で暮らしていること	若年層の健康や育児のための教育、食育	zoom配信ありがとうございました。仕事で全て理解はできませんでしたが、皆さんの熱意を感じ、自分にできることを考えてみようと思いました。今後のご活躍を期待しています。
79	誰もが生き甲斐を持って、適材適所で働き、自己実現し、社会全体も豊かな未来。 自然災害はじめ災害のリスクも最小限な世の中。	例えば多様な評価軸で人材を採用する企業の存在や社会の意識改革の促進。人文社会科学を科学技術イノベーションの軸に据えたのは極めて有意義で、科学技術イノベーションの進め方全体をイノベートして欲しい。そのアウトカムとして社会の変革に繋げて欲しい。	はやぶさ2など沢山の優れた日本の科学をもっと国民、さらには世界に堂々と発信すべき。 また、科学技術の広報とか社会の科学リテラシー向上に向けた国の取り組み強化を。 それによって科学に対する国民の支持、また、未来の人材を増やすことになる。基本計画案にしっかり入れて進めて欲しい。記載が見えない。
80	ロボティクスなど自動化が進んでいる社会	技術はもとより、社会システムやメンタルヘルスまでの一体した検討	

81	幸福な社会	社会参画	
82	国民、地域住民等が持てる能力を十分に発揮する機会が与えられ続けることが出来る社会が実現されていること	大胆な教育改革と社会革新の実行	
83	不安なく安心して生き生きと暮らせること。社会や保障や収入が維持できるいいし、文化的で産業を生み出す新たなコモンズが欲しい。	生活や産業の利便性を向上しロボットやデジタル技術が自身の生き甲斐や生活、社会サービスの質を高めるために貢献するツールとなる。	大学の体質改善、特に国立大の改革はまだ進んでいるとは思えない。イノベーションコモンズとして人材交流や民間企業人材の活用、共創の場造りを早く進めて、地域に企業やベンチャーが集まり産業や若手人材の育成をすすめることにもっと力を入れるべき。学問や研究力も大学教員に金を沢山つけても現状では効果が薄い。優秀な人材が集まり定着できるコモンズになり得るような人事や雇用処遇制度に大学がなっていないのが問題。現状では基金何兆円投じても無駄になる過去の繰り返しが見える。もはや優秀な人材が大学を魅力を感じない。独逸フ라운ホーファーのような大学と異なる経営体の新たな魅力的な場を作るのもいいのでは。ちなみに国研公設試もだめ。
84	安全、平和、豊かな社会	豊かな教育により科学技術を発展させ、科学技術により豊かで安全な生活、平和な世界を実現（守って）してほしい。	
85	人としての寿命を全うできる社会	研究者に好奇心とともに使命感を与える政策	科学技術・イノベーション基本計画が個々の研究者の琴線に触れるものになってほしい
86	理想の未来とは、個人では健康で安全・安心、自己実現を実感できる生活、社会的には人類の争いがなく、資源・環境面で持続的であること。	国内外のパートナーと共創の理念で連携しながら、人間中心のイノベーション成果を共有すること。	
87	自然との調和	低炭素 循環型社会 持続性	
88	健康寿命が高まっていること	認知症患者の減少と予防対策と効果の見える化	
89	国民を問わずみんなが安全で安心して持続性のある未来	科学技術とコミュニケーション力の両立に関する施策を並行しておこなうこと	
90	性別や雇用形態、お金等に制限されることなく、良い環境でそれぞれが自分の仕事に専念できること	予算規模やスピードでは米中に対抗するのは難しい現実だと思うので、むやみに流行を追わないで欲しい。基礎やスタートアップなど、それぞれを大事にして欲しい。似た様な研究で複数予算を獲得される場合があるので、内容によっては機関等を越えた柔軟で確実に成果を出せる体制をとって欲しい。	
91	住みやすさ、希望が持てる社会	スピード感、共創。	

92	日本に住む人が希望を持って暮らせる未来	技術だけを追い求めるのではなく、ローテクでも良いので、ソフトとして人の気持ちを奮い立たせるような政策。気持ちがなければイノベーションは起こらない。	大学と企業との連携が必要、大学間の連携が必要、初等教育から意識を変えるなど、昔から分かっている着地点に留めるのではなく、具体的にいつから、どこが、なにをしていくのか一歩踏み込んだ議論が聞きたい。 大学では、学生時代に学生に何を学ばせ、未来に貢献できる人材を輩出するのか、社会における使命を持って自分たちの大学では何をするのかを議論していただきたい。
93	技術・科学等の進歩があり、その先に続く発展を子・孫の世代が希望と好奇心をもって見られる世界	技術・科学等の進歩の促進、および、そこから得られる成果等の公平・公正な利用促進	